

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」(御浜町)の概要

8月9日(金)に御浜町の熊野古道地域センターで「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「尾呂志地区活性化プラン推進委員会」の皆さん9名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

Q、この活動に参加して、良かったこと、嬉しかったこと、感動したこと、やりがいを感じたことはありますか？また、自慢話はありませんか？

- 風伝峠の様子が見られるように、この場所に、ライブカメラを付けている。今年から、情報発信ということで、フェイスブックにもアップし、メディアを通じて、情報発信をしている。フィルムコミッションにより、ドラマの撮影も行われている。フェイスブック等にアップしているが、まだまだ不安である。評判も良くなり、とても良い雰囲気になってきている。だんだんやりがいが出てきた。
- 直売所、「さぎりの里」を作った。最近は収益も上がり、自慢である。73名の組合員がいて活動している。活動して思うことは、難しい面もあるが、維持することや、発展することにやりがいを感じる。熊野は所得水準も低く、所得向上が必要で

ある。高齢化社会がどこでも問題になっており、やりがい、生きがいを持つことが大切である。

87歳の組合員が言うに、直売所、「さぎりの里」に行くのが楽しみだと言ってくれる。医療に頼らず、生きがい対策は、間違いではなかった。自立できる農家の願いで直売所活動ができ、衰退していくばかりではいけないので、それを一番に考えでやってきた。約10年続いている。場所、立地が良かった。

「尾呂志地区の活性化プラン」がなければ、今はなかった。人が集まり、いろんな人の交流もよかった。尾呂志歳時記 - おいしいお米ができる理由「恋しょおろし」のパンフを作成した。みんなの力で作り上げた。今は無料で配布している。しかし、見てすぐ捨てられるのは寂しい。協力金も出してくれている。販売はできないかと考えている。

「尾呂志地域活性化プラン」では、目標管理をしている。外への発信、美し国おこし・三重の事業の参画、過疎事業、農業の簡素化、など行政も助けていただいている。

この地域はとても米がおいしい。農業をできる喜びがある。尾呂志「夢」めぐりで購入する米は、おいしいと言ってもらえる。特に「すし米」「尾呂志米」がおいしい。

裏作でにんにくを栽培して3年になる。また、他の方々や、人と人のつながりが財産になっていく。農業には関係ないが、伊勢のシンフォニックオーケストラの方々が、毎年、音楽祭をやってきている。今年で3年目になる。県の農業改良普及員の方々も手伝ってくれる。100人前後の方々が集まる。

わからなことがあれば、直売所、「さぎりの里」にすればわかる。家でわからないことが出てきたらここに聞く。共通の情報がここにある。

10年前、井の中の蛙であったが、農業に関わり、子ども達に関わり、田んぼで学校授業の1つで関わった。いいところばかりではない。おもしろくないこと、えらいこと、つらいことも体験したが、今は、農業をやっていて良かったと感じている。地元の米のおいしさを、伝えたい。夢アグリを立ち上げて、田んぼを荒らさないようにする、地元の田んぼをどう守るか、すぐに答えは出しにくい。みんなが集まると面白いし、飲み会も楽しい。

以前、ここにも無人市場があった。お金がなくなっていたりして、困った。高齢化も進んでいるが、直売所「さぎりの里」ができたおかげで、活力が出てきた。お客さんがどんな風にしたら喜ぶのか、どんな調理し、料理のレシピをどうするのかよりも大事だが、みんなが健康でやってきているのが何よりだ。

Q、この活動をより良くしていくために、こんな課題があるんだとか、行政からはこんなお手伝いがしてほしいなどありませんか？

夢アグリのお米は美味しい。一部の米は認知されてきたが、全体の底上げをしてもらいたい。外に発信してもらいたい。東京方面への出荷はできないか。付加価値をつける、たとえば、酒米をつくったらどうかという話もある。

尾呂志の水田集積は難しい。また、兼業でないと難しい。働く場所があるといいがここにはない。地域が機会を持たないと集落営農は成り立たない。企業誘致をして、

働く場所の確保が必要である。中山間地域では、収入を得ることの場所の確保が必要である。

働く場所の確保。住む場所も重要である。小中学校の連携、生徒数の減少がすごいスピードで起こっている気がする。空き家では1～2軒しか、意志の確認ができていない。空き家対策も進めていきたいと思っているが、現実的には難しい。昔から尾呂志地区では、住む場所が確保されていない。11名のボランティアがいてやっているがうまくいかない。南部の住宅の確保を含めて考えていただきたい。

耐震構造上、難しい。建物を壊してしまうこともある。空き家であっても、持ち主は、盆、正月には帰るので、手放せないと言う人が多い。土地はたくさんある。何が必要かを考えると、若い人が地域の所得格差をなくして、地域に家を建てる。でも現実的には難しい。うまくいかないケースがほとんどである。ニーズをうまくマッチングできない。

後継者不足である。農地の活用で、太陽パネルの設置や、農地のしぼり、規制を緩めてくれたらと思うことがある。それにより、かなり人が入ってくるのではないか。遊休農地の活用である。

高速道路が熊野まで延びる。もっと東紀州をPRしていただき、観光客の誘致をお願いしたい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

フェイスブック等で、世界遺産の熊野古道や風伝峠からの素晴らしい霧が出るなどをPRすることは素晴らしいと思うし、とても有効だと思う。三重県の宝である「さぎりの里」なんかも意識して情報発信してみてもどうか。

来月に東京日本橋に「三重テラス」をオープンさせる。テストマーケティングをしたり、改良を加えた情報発信をしていく。また、相談してほしい。

企業誘致の件であるが、ここから通える範囲も含めて、重要なテーマだと思っている。企業誘致の補助制度（地域資源活用型産業等立地補助金）を変えた。3人以上の雇用で補助を出す制度に変えた。

「移住フェア」を東京・名古屋・長野でやっても、三重は人気がある。徳島県の上板町のように成功した例もある。我々も勉強したい。

農地法であるが、国が厳しい。農業全体が縮小することになりはしないかと、国はなかなか難しい。明日、上京する機会があるので、各県ごとに異なる地域の実情に対応してやりたいことを申し上げてくる。

来年、熊野古道世界遺産登録10周年になる。秋にオープンする「三重テラス」でPRしていきたい。

色んな取組を、皆さんで築きあげてきた形、そういう中でも課題はある。課題は、働く場所の問題であったり、遊休農地の問題であったり、生きる課題がありながら前に進む皆さんに感銘を受けた。また、「三重テラス」への期待も嬉しかった。



【「尾呂志地区活性化プラン推進委員会」の皆さんとは】

豊かな自然や歴史文化のある尾呂志地区の農業を守り、地域の経済活動を活性化させる「地域おこし」や、人と人のつながりを大切にしながら生活環境を向上させ、定住化を促進する「地域づくり」を目指して、町や県と協働しながら尾呂志地区の活性化に取り組んでいる皆さんです。